

政府－企業間に生じる腐敗問題と 企業の行動についての実証的研究：中国のケース

An empirical study for corruption between local government and enterprises supervised
by them and its' influence on enterprises' behavior: A case of China

H30海人10

派遣先 バーミンガム大学ビジネススクール（イギリス・バーミンガム）

期 間 2019年11月3日～2019年11月18日

2020年2月5日～2020年2月22日（34日間）

申請者 公立大学法人 北九州市立大学 外国語学部

教授 白石麻保

海外における研究活動状況

研究目的

近年の中国では国有企業のような公的企業だけでなく民営企業においても、企業本来の競争力よりも企業を監督する地方政府との密接な関係の維持が市場での企業の生存（存続）確率により強く影響し、民営企業も地方政府との関係作りとその維持を志向するようになっていくことが見出された。即ち近年の中国では、従来政策的保護の対象とはならずそのために市場競争的であった民営企業もまた地方政府との癒着を志向するようになっている。そこで本研究活動の目的は、中国で取り上げられる腐敗問題を、この民営企業の市場競争的であった行動パターンが地方政府との関係維持を志向する方向へと変容している実態をふまえた政府－企業間におけるその関係の実証的解明を、中国、アジア研究成果の蓄積が豊富なバーミンガム大学ビジネススクールのA. Guariglia教授の助言を得ながら行うこととした。

海外における研究活動報告

1. 研究内容

企業の（その企業を監督する地方）政府との関係維持への動機付けが形成される背景の実態を実証的に明らかにした。そこでは、当該企業への資金的支援や当該企業の地方政府との関係を考慮した取引先企業の当該企業との取引の仕方に注目し、そうした資金的支援により市場での生存が可能になっている企業の存在が、市場競争が激しいと言われる中国において企業の市場からの退出を回避させ、結果として市場の淘汰メカニズムをゆがめるような実態がないかを検証した。

具体的な分析では、市場からの競争力の低い企業の淘汰メカニズムがうまく機能しているかを明らかにすることにより進められた。このとき、競争力の低い民営企業の市場での延命を可能にする要因をCox proportional hazard model等を用いておこなった。この実証分析により、次の点が明らかになった。即ち、国有企業のみならず先行研究ではあまり指摘されない民営企業においても、これまで銀行融資のような正規金融チャネルへのアクセスの難しさを

補完する形で有効に機能していた企業間信用が、競争力の低い民間企業に対して、買掛の増額、支払い延期を認めることにより、その企業の市場での生存確率を上げ(市場からの退出確率を低め)、その企業の市場からの退出回避を可能にしている。そして企業間信用を通じる実質的な融資は、企業の市場からの退出というその企業のライフサイクルにおける最終局面では救済的色彩が濃いことが分かった。

但し、このように救済されるのはすべての民間企業ではない。同じように競争力が弱い企業であっても総資産規模における小規模企業や、競争力が極めて劣位にある企業であるとこのような救済は行われない。企業の市場からの退出にあたって企業間信用により救済されるのは大規模企業で地方政府にとってその存在が財政的に重要な企業であった。但し、救済措置が講じられても当該企業の業績の上昇は見られないことも同時に見いだされた。これらの結果は、民間企業においても地方政府の監督下で市場の淘汰メカニズムがゆがめられる現象が見いだされ、本来は淘汰されるべき民間企業が市場に残存する傾向があることを実証的に示している。これをより普遍化していえば、中国民間企業においても地方政府とのポリティカルコネクションの維持、それへの志向はより強くなっていると考えられよう。

この点については、Gualigria教授やその研究チーム、若手研究者らと意見交換を行い、ポリティカルコネクションをどのような代理変数を用いることが適切か、中国、アジア経済分析における欧州の視点から見た場合の留意点、等について様々な示唆を得、帰国後にその点を含めてさらに分析を進める予定である。

2. 現地での研究交流と今後の展望

中国、アジア経済の実証研究が盛んなバー

ミンガム大学では、様々な研究チームが構成され中国・アジア経済分析、新興国経済分析においても文理融合型のユニークな研究テーマ、実験経済や独自データによる実証分析が数多く行われている。また、中国、アジアの研究対象国の実態についても現地との交流を継続することで事情に通暁している。そして分析手法についても先端のものを取り入れ、分析結果を豊富に蓄積している。今回の滞在時にはそうした研究にも触れることができ、本研究テーマの分析にも生かされることとなった。また同時に、今後の本研究テーマの展開においては、今回の海外派遣時にそうした斬新な研究テーマの設定、分析手法やアイデア面で触れることができた数々の知見やそれに結びつくアプローチ手法を参考に取り入れるべく、現在模索している。

謝辞

海外派遣時期についてはCovid-19問題をはじめとする種々の理由で変更や切り上げを余儀なくされたが、公益財団法人村田学術振興財団研究者海外派遣援助を得て英国・バーミンガム大学に赴くことができたことにより、国内ではなかなか得られないアイデアやアプローチ手法、知見に触れることができ、それが何より大きな成果であったと考える。このような貴重な機会を与えて下さった公益財団法人村田学術振興財団に今一度深謝申し上げます。

この派遣の研究成果等を発表した 著書、論文、報告書の書名・講演題目

Yano, Go and Maho Shiraishi (2019), "Efficiency of trade credit and bank finance: An ethnic minority area in China", *Journal of the Asia Pacific Economy* (DOI: 10.1080/13547860.2019.1670929). (現在オンライン出版状態)